



# 福島だるま交流プロジェクト



## DATA

### ■主な連携先・メンバー

福島県双葉町のみなさん/福島県西郷村のみなさん/京都府京丹波町のみなさん/関西大学校友会福島支部

### ■活動地域

福島県双葉町・西郷村/京都府京丹波町

### ■活動期間

2016年度～継続中

### ■活動資金

京都府「1まち1キャンパス事業」(2016年度～2019年度)

## 活動の目的

- 1 東日本大震災やその後の災害で被災した福島の方々と交流すること
- 2 友好町の枠組みを生かして、京都府京丹波町の方々と連携すること

## 連携にいたる経緯

東日本大震災で被災した福島県双葉町の住民の方が集団で避難していた、福島県いわき市の仮設住宅において交流したのが契機。2017年から「折り紙だるま」を制作して交換するプロジェクトを始動。現在は校友会と連携して、西郷村などでも防災活動をしている。

## 活動内容

東日本大震災で被災し、原発避難を余儀なくされた双葉町民の方々と交流支援することが当初の目的だったが、現在は活動の幅を広げている。

柱のメインは、双葉町の特産である「だるま」をモチーフにした「折り紙だるま」を様々な人と制作して、福島の今に思いを馳せ、交流すること。友好町である京丹波町の高齢者サロンで実施していたが、いまでは、親子が集う催しなどでも広く実施して好評を得ている。「折り紙だるま」はインスタグラムでも公開中。(https://www.instagram.com/kondolab\_daruma1000/)

東日本大震災以降、福島県は様々な災害に見舞われている。2019年の台風19号の後では、被災した須賀川市を視察した。将来の災害に備えるために、現在は西郷村役場と連携して、防災行政無線を活用して毎週月曜日の就寝まえに「防災ひとつくちメモ」を学生が放送する取り組みをスタートさせている。



## 活動の成果

- 1 校友会福島支部と連携して福島全域を視野に入れたフィールドワークを展開
- 2 インスタグラムで「折り紙だるま」の写真とメッセージを発信中
- 3 福島県西郷村で防災行政無線を活用して毎週「防災ひとつくちメモ」を放送中

## 今後の課題・目標

- 1 こどもたち、若者たちとのつながりを増やしていきたい
- 2 Twitter「#RUNforFUKUSHIMA」等で仲間を増やしていきたい
- 3 福島の今を知る連続ワークショップを企画したい

### 教員紹介



■社会安全学部 准教授

近藤 誠司  
Seiji Kondo

日本で唯一の「災害ジャーナリズム論」のゼミを開講。外国人大学院生も共に学ぶ。ぼうさい甲子園グランプリ、レジリエンスアワード金賞、学長奨励表彰3年連続受賞。テレビ、ラジオ、新聞などで、学生みずから情報発信。レギュラー番組も数多い。